

# フィリア・レター

～真の友人からの手紙～



発行所:中部ろうさい病院

〒455-8530

名古屋市港区港明1-10-6

TEL 052-652-5511

FAX 052-653-3533

<http://www.chubuh.rofuku.go.jp/>



## 新しい整形外科の外来について

脊椎整形外科部長 湯川 泰紹

整形外科は、2007年7月より新外来棟1階中央向かって左側で外来を行っています。場所的には正面玄関や薬局、会計そして良くお世話になる放射線科への距離が近いところにあります。また足の悪い方や高齢患者さんが多い当科にとっては、上下の移動がなく導線も短い、非常に恵まれた場所で診療を行っています。玄関から新しい外来棟、病棟へはほとんど段差がなく、スロープもゆるいため、車椅子の方でも自由に移動できるように配慮されています。新しい整形外科には5つの診察室と処置室、ギプス室があります。平日午前は通常4名の医師が外来を担当し、木曜日、金曜日は名古屋大学からの応援医師が一人加わり5名で診察しています。現在脊椎・脊髄疾患の患者さんの外来は、週5日の外来日すべて受け付けています。この5日間には必ず脊椎脊髄病指導医が外来を担当しています。当院を受診される脊椎・脊髄疾患の患者さんは年々増加しており、3名の指導医(加藤、湯川、伊藤)の外来は非常に込み合っています。初めて診察を受けられる方で専門医の診察を希望される場合は、紹介状持

参での受診をお勧めしています。また当院は急性期病院という性質上、治療の対象は、症状が重篤で手術治療が見込まれる方とその術後の方が中心となります。慢性の疾患で投薬や、リハビリを希望される方は当科では待ち時間も長く、効率が悪いと考えますので、近隣の開業医の先生方に紹介させていただきます。通院中の方でご希望の方はお申し出いただければ、紹介状を手配いたします。新しくきれいな外来ではスタッフも気分良く勤めることができます。これは診察を受けられる方も同様と思います。皆様方のご協力を仰ぎながら、高度の医療と清潔できれいな環境を永く提供し続けることができますよう努めてまいります。



### 今月号のお知らせ

①新しい整形外科の外来について

.....脊椎整形外科部長 湯川 泰紹

②新しい心療内科の外来について

.....心療内科部長 勤労者メンタルヘルスセンター長  
芦原 睦

③フットケア外来について

.....形成外科 森下 剛

④患者さんの声 ～労働者の味方～

④編集後記



## 医師



### 新しい心療内科の外来について

心療内科部長  
勤労者メンタルヘルスセンター長  
芦原 睦

現代のストレス社会に対応すべく、新しい外来診療棟ができ、心療内科と勤労者メンタルヘルスセンター(mental health center : MHC)も昨年新築されました。

診察室2室、心理療法室1室、カウンセリングルーム3室、集団療法室にMHC2室が出来上がりました。これらの設備により、患者さんのプライバシーが保てる空間ができたことをとても嬉しく思います。またスタッフは医師4名(非常勤1名を含む)、心理士(臨床心理士、医療心理士、産業カウンセラーを含む)9名で業務を行っています。愛知県内の病院で、ここまで充実した設備と人員を有する心療内科は他に類をみないでしょう。関係各位に感謝すると同

時に、なお一層の精進をこころがけ、設備に負けない貢献をしていく所存です。

心療内科では、初診の患者さんのお話を約1時間かけて聞いている都合上、完全予約制(052-652-5749)とさせていただいています。

またMHCでは、健康保険によらない相談窓口で、電話相談、対面式カウンセリング、メンタルヘルス相談等を行っています。患者さんのみならず産業衛生スタッフの方の相談もお受けしています。

現代は、心の時代と言われ、ストレスは巷に溢れています。心と身体を分けずに診療している「心療内科」という内科は今後ますます時代のニーズが高まると考えられます。

#### ◆お知らせ◆

新しい特定検診・特定保健指導が今年の4月から始まりました。ご希望の方は、当院勤労者予防医療センターへご相談下さい。

相談窓口：2階 勤労者予防医療センター 予約受付時間：月～金 8:15～17:00 電話番号：052-652-5511

自分の健康は自分で守りましょう

★「フィリア・レター」は、「中部ろうさい」病院が、患者さまに向けて当院の現況や新しい医療情報などを発信したり、患者さまの建設的な意見を反映する広場として発刊しています。



医師



## フットケア外来について

形成外科 森下 剛

フットケアとは足の手入れ全般をいいます。糖尿病があると足潰瘍や足壊疽になりやすく、そのような足病変を持つ糖尿病患者さんは、糖尿病患者さんの全体の約2%を占めると言われています。糖尿病患者さんでは足潰瘍を生じて足壊疽となり、それから足切断を余儀なくされる方もおられます。足病変が拡大する前の軽症時のケアが極めて重要です。当院の形成外科では平成18年5月からフットケア外来を開設し、形成外科医師、皮膚・排泄ケア認定看護師、形成外科看護師、義肢装具士が協力して、糖尿病患者さんの足病変の診断と治療およびフットケア、日常生活指導を実施しております。外来では実際に患者さんの足に触れ、潰瘍部の処置、タコやウオノメの処置を行っております。なお水虫等は皮膚科にて治療を行っております。診察時には看護師、医師より問診を行うこととしており、特に初診時には足の感覚の検査、足の関節の可動域

の検査も行っております。必要に応じて足関節血圧と上腕血圧比の測定、足趾の血圧と上腕血圧比の測定や、血管エコーを行っております。足の血流に問題がある時には処置だけでは傷の改善は認められないため循環器科等へ依頼しております。特に足変形が強い場合にはフットプリント等を用いて、足底板の作製、足底板だけで改善がみられないときには、靴を作製しております。靴作成の際には外で履く靴だけでなく、家の中でも履く室内靴も作るように勧めております。また、患者さんご家族に外来での処置に参加してもらうことで、正しい足のケアを家でも継続していただける動機づけになっていると考えております。糖尿病の患者さまでは早期より適切な処置、フットケアを行うことが必要です。糖尿病をおもちの方でタコ、靴、傷などの事でお困りの時はお気軽に形成外科にご相談ください。ご相談の上、火曜日のフットケア外来にて定期的に診察させていただいております。

★中部ろうさい病院のホームページで、〈病院の情報〉〈フィリア・レター〉〈ろうさい病院つうしん〉がご覧いただけます。携帯電話からもアクセスできます。どうぞ、ご利用ください。

## 患者さんの声

### 労働者の味方

昭和33年頃、路面電車を利用した時代、木造校舎に似た屋根上に、「労災病院」の看板が思い出される。「もし怪我した時は、此処に来れば良い」と安心感を与えてくれた。朝7時から夜8時までが、労働者の定時であり、毎日30kg~60kgの荷物を背負ったり、肩に担いで運搬することは普通の仕事であった。時には12km~20kmの買出しに出掛ける日も、慣れた道のりである。そんな時代に生きた働き蜂の人達は現在70才以上の方々に、足腰に異常が発見されても本人自身は驚いてはいない。むしろ「若い頃は無理をした」と車のない時代を思うだけだ。16才頃から家庭の手助けとして野山で働く青少年にも重荷での運搬作業は、成長するはずの体を止める事になる。その過去の重労働が、今の我々の変形した体である。

そんな私も過日、腰痛のため、ついにホテルの様な洋館造り「中部ろうさい病院」の看板に、「来れば良い」の思いが50年過ぎて、お世話になることとなった。患者さんにも優しく、病も軽くなりそうな看板、そして広い高原の中に吸い込まれる感じで、昔の疲れが一度に集中した感じを持ちつつ玄関口ビーへ。院内で迷いながらもホテル同様、受付から目的の科へと、優しく案内して戴き先ずは一休み。昔人間に戻り、院内の設備に気を取られている内、待ち時間も少なく診察室へ。先ず骨のレントゲン撮影の説明で、先生からの一言、「これは、ひどいですね。」私には、骨が擦り減って座骨が外にはみ出してあり、状態がひどいことは覚悟。でもここで、先生の言葉から「よく働いた体ですね。良く使った体ですね。もう少し楽になるように治療しましょう」とほのかな言葉で説明を受けたかった。現代の医療機器の進歩にその一切をお任せするのではなく、先生方の豊かな治療法でその人、その人の病に立ち向かって戴きたい。そして助手として大きな支えになる看護師さんの力。まだまだ「看護婦」と気軽に呼んでしまうが、患者のわがままでもあり甘えでもある。より一層頼れる病院になってほしいと願っています。

(名古屋市熱田区 S.K)

## 編集後記

皆さんは病院を選ぶ時にどんなことに気を付けていますか？私が病気になった時の病院選びのコツは、「若い医師や看護師がきちんと教育を受け、笑顔で仕事をしているか？」です。

有名な医師が居て、いくら診断や手術がうまくてもその人が居なくなったら何も残らない病院では患者さんにとって一生付き合いたい病院にはなりません。

私たちの病院では患者さんへの診療だけでなく若い医師や看護師の教育にも力を注いでいます。

笑顔で働く若いスタッフを見かけたらぜひ皆さんも応援してください。

(EK)